



- ♥特別養護老人ホームハートウイング
 - ♥ケアハウス永楽荘
 - ♥ショートステイ(短期入所)
 - ♥ハートウイングデイサービス
 - ♥居宅・老人介護支援事業
 - ♥グループホーム□和
 - ♥グループホーム永田ハイム
- Tel.0824-89-2700 Fax.0824-89-2800
- ♥第2ハートウイング
- Tel.0824-75-0605 Fax.0824-73-1313

謹賀新年



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、東日本大震災による甚大な津波被害と併せて原子力発電施設の崩壊被害等々、世紀的自然災害に遭遇し、更に国政の不安定と不況に明け暮れた一年であったように思っております。今年の辰年はなんとか明るい世相になることを願いつつ、新年早々ハートウイングから小さな明るいニュースをお届け致します。介護現場のハートウイングといたしましては昨年、庄原市上原町に短期入所生活介護事業所（シヨートステイ）25床を新築致しました。これにより施設開設以来、認知症グループホームと併せ介護床数44床を増床することができました。

理事長 有田好隆

又、職員数93名に増員し地域の介護のお手伝いや、現在の不況時に於ける就労の場のご提供、地域所得の充実と併せ、介護基盤の強化に連動できたことは、平素、地域の皆様の暖かいご指導、ご支援の賜物と心から厚く感謝しお礼申し上げる次第です。今後、超高齢化社会の進行方向を見極めながら、認知症対応施設をはじめとし介護サービスの高揚に役員一丸となって研鑽努力致す所存であります。新春にあたり皆様方の格段のご指導ご支援の程懇願申し上げます。言葉は足りませんがご挨拶とさせていただきます。



口和福祉会の取組

施設長 大田一博

口和福祉会は平成6年4月に特別養護老人ホーム、短期入所、デイサービス、在宅介護支援センター、軽費老人ホーム（平成7年2月開所）を基盤とし発足しました。その後、約10年の経営基盤確立の時期を経て、平成17年から地域の介護の実情、ニーズを検討し施設内の会議室、展示室等を3年の期間を費やし、ごく僅かな設備投資で短期入所の定員を発足当時の2倍の20床に増床しました。これは高齢化率が上昇する中、一人暮らしや高齢者夫婦の家庭が増え、在宅介護では対応しきれない状況が背景にありました。そのような中で、認知症患者の在宅介護において認知症対応による徘徊や昼夜逆転等、ご家族では対応しきれない状況に対応すべく平成19年3月に認知症対応型グループホーム（9人）を開設しました。

その間、厚生労働省が打ち出す介護保険施策は在宅介護の充実、整備ということでした。しかしながら、短期入所を含む施設入所のニーズは依然高い水準にあり、そのような状況を鑑み昨年10月の短期入所施設25床「第2ハートウイング」の開設に至りました。開設後3ヶ月間の平均稼働率は95%前後で推移しています。現在庄原市では、平成24年度から始まる第5期高齢者福祉計画・介護保険事業3ヵ年計画を策定中で昨年（平成23年）8月に市内介護保険事業者を対象に平成24年度から3年間の介護保険施設整備計

画の調査が実施されました。口和福祉会としては、これまでの実績、地域の実情、ニーズを十分に検討し評議員会の意見を聞き、理事会の決定として認知症対応型グループホーム（18人）の整備計画を庄原市へ提出しているところです。平成24年4月に迫った、介護保険改正と同時に医療保険改正においては認知症患者の長期入院を抑えようとする改正が予測されている中、認知症患者に対する福祉施設の充実がより一層求められると考えられます。

昨年末、東京都高齢者施策課から東京都独自の特別養護老人ホーム（特養）整備補助金を創設し広く全国の社会福祉法人の東京都内での特養運営を募集する通知が寄せられました。在宅介護が重視されることは当然のことですがそれを否定するものではないと見なしますが、在宅介護の充実と併せて施設整備が今後も重要な施策ではないかと思えます。

庄原市が策定する介護保険事業計画（3ヵ年）の中で施設整備が認められなければ、平成26年までの3年間は新たな施設開設をすることができないという状況の中で是非とも庄原市においては施設整備の枠を計画に上げていただくよう望むところです。

今後、介護保険制度を問わず地域の実情に合った、安心してご利用いただけるサービスを実施できるよう、役員員一致協力して努力する所存ですので皆様方のご指導ご協力をお願いし平成24年、年頭のご挨拶とさせていただきます。



「ふれあいの介護」をとおして

統括係長 盛崎小百合

口和福祉会が発足して18回目のお正月を迎えました。昨年は10月に庄原市上原町に第2ハートウイング（短期入所施設25床）を開設し口和福祉会にとつて大きな展開の年だったと思えます。立派な建物だけでは利用者様に満足していただくことはできません。利用者様一人一人と触れ合うことで日々楽しく暮らして頂くことを目的として、昨年10月から口和福祉会全体で取り組みだのがふれあいマッサージです。肌と肌とのふれあいと一口で言ってもどうしたら良いのかという惑いがありました。ハートウイングに関心をもち利用される方から、アロマセラピーを利用したマッサージを提案していただき全職員が業務終了後研修を受けました。寝たきりの方でもベッドのそばでマッサージをしながら会話をすることで、少しずつ利用者様の笑顔が見られるようになりました。言葉が発せられない方でも職員と触れ合うことで嬉しそうな表情をされています。

先だって93歳の認知症がある利用者様に、28歳の男性職員が会話をしながらふれあいマッサージを行っていたところ、男性職員の膝枕で子供に返った様な表情で休まれました。たまにたまにその時子供さんが神戸から面会に来られ、「あの様な母の姿を見たのは初めてです」と大変喜ばれ、「職員さん

んにお礼を言っておいてください」との伝言を頂きました。肌と肌で触れ合う介護に、ご家族が遠く離れていても安心されて帰られたこと。嬉しい気持ちでした。

8月からは理学療法士の先生に毎週木曜日、午後から来て頂き利用者様個々に合ったリハビリテーションを実施して頂いています。脳梗塞後遺症により、車いすでの生活でしたが今では、歩行器で移動されるようになり家族の方も大変喜ばれています。日々のレクリエーションでは担当者を決めて、手芸やカラオケ、頭の体操として計算問題を解いたり身体を動かすなど、毎日活気あるプログラムを行っています。

また、昨年9月にはリハビリテーションを中心としたデイサービスを実施されている、ヘルスケア入野デイサービスセンター（東広島市）に職員6名が交代で1ヶ月間研修に行きました。11月には先生を施設に招き、指導していただき各部署において実践しています。

現在、150名近い皆様にご利用いただいています。明治、大正、昭和、平成の時代を生きてこられ、私たちに想像もつかない苦難の人生を歩んでこられた大先輩である利用者様に、これからは安心して過ごしていただく介護をさせていただきます。ご家族の皆様、地域の皆様、各関係者の皆様、今年も宜しくお願いします。